

授業科目名	在宅看護学	担当教員名	講師 竹田 裕子 他		
開講年次及び学期	4年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	45	単位数	1
授業概要					
<p>健康問題をもって在宅で生活する人々とその家族の特性を理解し、健康と生活とのつながりを総合的に捉えることにより、自立に向けた支援の基礎的能力を養い、生活者としての尊厳を基盤とした看護について学ぶ。</p>					
G I O（一般目標）					
<p>健康問題をもつ在宅療養者とその家族について看護実践を通して理解し、在宅療養者とその家族のセルフケア能力に応じた看護計画を立案できる。また、在宅ケアシステムにおける連携や協働の必要性、看護職の役割について理解できる。</p>					
S B O（行動目標）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護制度の概要を理解し、その機能、役割、意義について説明できる。 2. 在宅看護過程を展開し、在宅看護における情報収集とアセスメントの視点から、在宅療養者とその家族の健康上の課題を抽出することができる。 3. 健康上の課題に対して目標を設定し、在宅療養者とその家族の生活に応じた具体的な計画を立案することができる。 4. 在宅看護技術を理解し、在宅療養者やその家族に合った看護ケア及び生活援助ができる。 5. 訪問看護ステーションの管理、運営、機能について理解し、他機関や他職種との連携について説明できる。 6. 介護保険制度等にもとづく利用者のケアマネジメントについて説明できる。 7. 在宅療養を支える社会資源の活用方法について理解し、地域における看護職の役割について説明できる。 					
成績評価の方法					
<p>実習記録やレポートの内容・提出状況、出席状況や実習態度、カンファレンスへの参加、指導者の意見を参考にして担当教員が評価する。</p>					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看護学」の教科書、参考書、配布資料を活用すること。 ・「臨地実習の手引き」を配布する。 					

授業計画

実習内容

<学内導入学習>

- 1) 実習前オリエンテーションを踏まえ、在宅看護学実習に必要な知識・技術を事前に自己学習する。
- 2) 在宅看護学のテキスト以外にも実習期間中に活用できる文献・資料を予め準備しておく。
- 3) これまでの看護学実習の学びをふまえた在宅看護学実習における自己目標と、自己目標を達成するために在宅看護学実習で経験したいことを「実習自己目標」に記載し、期日までに提出する。

<実習1日目～実習5日目>

- 1) 実習指導者から実習施設と周辺地域の概要、利用者の概要・特徴・構成、訪問看護職の役割・機能等のオリエンテーションを受ける。
- 2) 実習指導者から訪問対象者の提示を受け、訪問対象者についてカルテや看護師から情報収集する。
- 3) 訪問までに実施したいケアや情報収集したい項目等を同伴する訪問看護師へ報告し、訪問時の手順や内容の打ち合わせを行う。
- 4) 訪問看護師と同行訪問を行い、在宅における看護全般の見学あるいは実践を行う。訪問後、訪問で得た情報等を追加する。また、行った看護を評価する。
- 5) 毎日30分程度のカンファレンスを開催し、その日の学生同士の体験や学びについて意見交換をして、学習を深める。カンファレンスの内容は、当日の目標や内容をふまえての振り返り、気づき、学び、疑問、検討したいこと等に基づいて、実習体験の意味づけをし、効果的なものとする。
- 6) 訪問対象者の中から1事例について詳細な情報収集とアセスメントおよび看護計画を立案する。複数回の訪問が可能な場合は計画に基づいたケアを実施し記録する。最終カンファレンスの時に発表し、実習指導者や担当教員より助言、指導を受ける。
- 7) 在宅看護学実習の体験を振り返り、在宅看護について自分の考えをレポートにまとめる。

- ・ 県内の訪問看護ステーションで実習を行う。実習施設の規則を守り、ケアチームの一員として行動する。また、ゲストとしてマナーを守り同行訪問する。
- ・ 時間を守り、欠席、遅刻、早退の必要が生じた時には速やかに実習指導者、担当教員に連絡する。そのほか実習については随時担当教員に報告・相談する。